

富士箱根伊豆国立公園指定90周年記念・第3回箱根芸術祭 参加企画
箱根写真美術館コレクション 山田應水と日本の国立公園

会期：2026年3月18日（水）～9月7日（月）
10:00-17:00（最終入場）



箱根の玄関口・箱根湯本の国道1号線沿いに建てられていた看板 昭和20-30年頃



岡田紅陽・山田應水 国立公園写真集
1936(昭和11)発行：国立公園協会
昭和9～11年に全国12箇所(阿寒、大雪山、十和田、日光、富士箱根、中部山岳、吉野熊野、大山、瀬戸内海、阿蘇、雲仙、霧島)の国立公園を正式に指定完了したことを記念し、発行された写真集。



晩年の山田應水 箱根小涌園にて

【展覧会概要】

山田應水は大正から昭和初期にかけて活動を続けた風景写真家です。箱根写真美術館は晩年の應水が過ごした自宅の庭部分に、孫であり写真家の遠藤桂により私設美術館として開館、應水の作品や資料を収集保存しております。

本展では、富士箱根伊豆国立公園指定90周年記念連携イベントとして、箱根写真美術館コレクションより、大正～昭和に鉄道省や国際観光局、国立公園協会等から囑託を受け、全国名勝地を撮影、昭和11年には国立公園協会から「岡田紅陽・山田應水 国立公園写真集」が出版される等、日本の国立公園事業に貢献した写真家、山田應水（やまだおうすい1880-1964）の作品を展示します。

晩年に終の住処として居住地に選んだ昭和20-30年代の箱根の風景写真も展示します。

日本の山岳風景写真と観光写真の先駆者

【山田應水 略歴】 Ohsui YAMADA(1880～1964)

岐阜県に生まれる。1891年（明治24）、濃尾地震により両親を失い、慈善事業家・石井十次による岡山孤児院で教育を受け、実業を学ぶ。岡山市内にて人物写真館を経営するが人に譲り、上京。

1916年（大正5）の夏、かねてより憧憬していた日本アルプス白馬岳に登山。以来、日本アルプスの山々をはじめ、各地の高山や高原、渓谷、湖畔を跋渉し撮影を行う。1924年（大正13）、日本橋丸善において初個展となる山岳写真展覧会「日本アルプス写真展」を開催。当時、日本では観光事業の重要性が認められ始めていた。鉄道省の囑託に任命されたことをきっかけに、ジャパン・ツーリスト・ビューロー、日本庭園協会、国立公園協会、国際観光局、風景協会、各県観光課等の依頼により、全国の名勝・史蹟・風俗などの宣伝資料撮影のため各地に出張し、撮影原板は数千にのぼった。應水の写真は、『日本庭園協会機関紙』『庭園』、国立公園協会機関紙『国立公園』、風景協会機関紙『風景』をはじめ、絵葉書、雑誌の口絵や表紙、各地のパムフレットや案内書、新聞紙などに多数掲載された。また、こうした各地の名勝を紹介する写真展も全国で開催された。

1936年（昭和11）、国立公園12箇所（瀬戸内海、雲仙、霧島、阿寒、大雪山、日光、中部山岳、阿蘇、十和田、富士箱根、吉野熊野、大山）の指定を記念し、『岡田紅陽・山田應水 国立公園写真集』（国立公園協会刊）が出版される。

同年7月15日～20日、東京銀座伊東屋にて国立公園写真展覧会が開催され、山田應水、岡田紅陽、小西白堂の三氏の写真が展示される。

また9月26日～10月11日には、東京鉄道局、国立公園協会、日本旅行協会主催により、新宿伊勢丹にて国立公園指定記念展覧会が大々的に開催された。

1945年（昭和20）、應水は神田神保町に風景を専門とする写真事務所「風光社」を構えていたが、東京大空襲で焼け出され、戦災と疎開先での水害により撮影した多くの写真原板は失われてしまう。

1948年（昭和23）、戦後復興期のレジャーブームの先駆けとなる箱根小涌園旅館部開業にあたり、小川栄一氏の依頼を受け、箱根と東京を往復し撮影を始める。

その後、小涌園写真部の仕事を娘夫婦（恭子・遠藤實一）に引き継ぎ、自身は箱根の風景や山野草の撮影、写真展の開催、カラー写真の研究など精力的に活動を続けた。

1964年（昭和39）、夏に京都撮影に出かけた後体調を崩し、10月、強羅の自宅（現・箱根写真美術館隣地）で逝去。

最期の言葉は「やりたいことができ、幸せな人生だった」。



富士箱根伊豆国立公園指定 90 周年記念
箱根写真美術館コレクション

山田應水と

Otsuji YAMADA and Japan's National Parks

日本の国立公園

2026.3.18 (Wed.) ~ 9.7 (Mon.)



箱根写真美術館
Hakone Museum of Photography

日本の山岳風景写真と観光写真の先駆者 山田應水 Ohsui Yamada (1880-1964)

岐阜県に生まれる。
1891年(明治24)、濃尾地震により両親を失い、慈善事業家・石井十次による岡山孤児院で教育を受け、実業を学ぶ。
岡山市内にて人物写真館を経営するが人に譲り、上京。

1916年(大正5)の夏、かねてより憧れていた日本アルプス白馬岳に登山。以来、日本アルプスの山々をはじめ、各地の高山や高原、溪谷、湖畔を跋渉し撮影を行う。

1924年(大正13)、日本橋丸善にて初個展となる山岳写真展覧会「日本アルプス写真展」を開催。

当時、日本では観光事業の重要性が認められ始めていた。鉄道省の囑託に任命されたことをきっかけに、ジャパン・ツーリスト・ビューロー、日本庭園協会、国立公園協会、国際観光局、風景協会、各県観光課等の依頼により、全国の名勝・史蹟・風俗などの宣伝資料撮影のため各地に出張し、撮影原板は数千にのぼった。應水の写真は、日本庭園協会機関紙『庭園』、国立公園協会機関紙『国立公園』、風景協会機関紙『風景』をはじめ、雑誌、新聞紙などに多数掲載された。また、国民への普及のため、各地の名勝を紹介する写真展も全国で開催された。

1936年(昭和11)、国立公園12箇所(瀬戸内海、雲仙、霧島、阿寒、大雪山、日光、中部山岳、阿蘇、十和田、富士箱根、吉野熊野、大山)の指定を記念し、「岡田紅陽・山田應水 国立公園写真集」(国立公園協会刊)が出版される。同年7月15日～20日、東京銀座伊東屋にて国立公園写真展覧会が開催され、山田應水、岡田紅陽、小西白堂の三氏の写真が展示される。また9月26日～10月11日には、東京鉄道局、国立公園協会、日本旅行協会主催により、新宿伊勢丹にて国立公園指定記念展覧会が大々的に開催された。

1945年(昭和20)、應水は神田神保町に風景を専門とする写真事務所「風光社」を構えていたが、東京大空襲で焼け出され、戦災と疎開先での水害により撮影した多くの写真原板は失われてしまう。

1948年(昭和23)、戦後復興期のレジャーブームの先駆けとなる箱根小涌園旅館部開業にあたり、小川栄一氏の依頼を受け、箱根と東京を往復し撮影を始める。その後、小涌園写真部の仕事を娘夫婦(恭子・透藤賢一)に引き継ぎ、自身は箱根の風景や山野草の撮影、写真展の開催、カラー写真の研究など精力的に活動を続けた。

1964年(昭和39)、夏に京都撮影に出かけた後体調を崩し、10月強羅の自宅(現・箱根写真美術館隣家)で逝去。



風光会と称し、当時法座を共にした写真家達。左から岡田紅陽、小西白堂、山田應水。1957(昭和32)。



岡田紅陽・山田應水 国立公園写真集 1936(昭和11) 発行・国立公園協会 昭和9～11年に全国12箇所(阿寒、大雪山、十和田、日光、富士箱根、中部山岳、吉野熊野、大山、瀬戸内海、阿蘇、雲仙、霧島)の国立公園を正式に指定完了したことを記念し、発行された写真集。



日光 神橋 山田應水



美人瀬渓流 山田應水

小田急ロマンスカー湯本にて 1957(昭和32) 山田應水



(すべて箱根写真美術館蔵)



箱根芸術祭
詳細はコチラ



箱根写真美術館のルーツ

山田應水使用機材
木製箱立暗箱



常設展示 遠藤桂 写真展【富士山～大地の鼓動と自然の息吹～】 Permanent exhibition: Katsura ENDO・Mt.Fuji・Earth's Pulse, Nature's Breath

- 神奈川県足柄下郡箱根町笠置1300-432 ■ TEL: 0460-82-2717
 - 10:00-17:00(最終入場) 毎週日曜のみ 8:00-
 - 休館日: 毎週火曜、第3月曜(祝日を除く)、4/1(水)、7/17(土)、18(土)、22(水) 他臨時休館あり
 - 入館料: 大人¥500/中学生以下¥300/未就学児童無料
 - 箱根登山鉄道「強羅駅」より徒歩4分/箱根山ケーブル「公園下駅」より徒歩1分/P無
- 1300-432, Gora Hakone Ashigarashimo-gun Kanagawa, 250-0408, Japan
10:00-17:00(Last Admission), Every Sundays 8:00-
Closed: Every Tuesdays, 3rd Monday(except Holidays), plus occasional Temporary closures
Admission: Adults ¥500, middle-school students/children under 15 ¥300



箱根写真美術館
Hakone museum of photography

Pais de l'oeuf
箱根アート・プロジェクト

<http://www.hmop.com>